

広報 やまの

No.135

2023.7.25

山野地域づくり協議会
南砺市飛騨屋20番地
TEL 0763-82-4510

山 斐

シリーズ 山野再発見

野能原

シリーズ 山野再発見

山 斐

山斐自治会長 木下晴雄

『ともしびの道』の玄関口山斐は、昭和五十二年圃場整備大事業完成に伴い、それまでの松原上野、松林、縄の内、松崎、高儀新の五部落が境界を解きかつ、元和寛永以来三百数十年に及ぶ歴史を改め大同合併されました。

地名の山斐は、古文書に依れば「遠く吉野朝の頃より此の辺一帯を山斐郷と称した。仍（よつ）て新地名を之に因んで総意に基づき山斐と定めた」とあります。

また、昭和三十六年に建設された前公民館は県道拡幅工事に一部かかること、以前より時代の推移とともに手狭による増築要望により、昭和六十三年秋現在の地に新たな山斐公民館を建設しました。

新公民館建設時五十七世帯であったが地域内に団地が造成されたことにより、現在は七十八世帯と若い世代を中心に大幅に増加しました。

山斐神社は明治の中頃、松原上野村、松林村、縄之内村、松崎村、高儀新村の村にそれぞれあったお宮を二か所にまとめ五ヶ堂神明社とし、その



山斐公民館

後明治四十五年四月に岩屋神明社と現在の地に合祀鎮座されました。健やかな長寿をめざして、ふれあい・いきいきサロン活動に加え平成二十九年より週一運動サロンにも取り組んでいます。

野 能 原

野能原自治会長 往蔵政人

野能原地区は、越中一の宮の高瀬神社を南側にして、井波と福野を結ぶ国道四七一号線が東西を走る一帯に集落がある。

現在二十九世帯が住む野能原地区は、かつて庄川が氾濫した箇所、南西側には八乙女山から流れ出す大門川が氾濫して形成した台地上の土地が広がっています。従来、灌漑用水に乏しく藩政初期は原野として残されていた一帯であった。次第に整備される用水の開削に伴って近くの村々からの出村としての開墾が始まったため、能毛野新村、松原出村、野尻野新村からなり三ヶ島と称していた。

明治二十二年に市町村制の施行にともなって山野村の大字となる。また、昭和二十九年四月に町村合併により井波町の大字となる。その後、圃場整備事業により、三村が合併して井波町野能原となった。同時期に墓地も現在地に移転し、平成十年に至り町道一〇四号線拡幅に伴い野能原共同墓地として再整備され、年三回の清掃作業を全戸で行っている。

野能原には、能毛野神明宮と松原出神明宮があり、秋の祭礼では恵比須様祭りと呼び恵比須様にもお参りをしております。

また、平成二十八年度に、野能原環境整備委員会が立ち上り、共同墓地清掃前に道路清掃を行ったり、用排水路の保全事業に取り組んでいます。



松原出神明宮



共同墓地



能毛野神明宮



協議会五年目に入って

山野地域づくり協議会長

高田 実

山野地域づくり協議会の4年間は、コロナ禍に翻弄された4年間でした。1年目こそ年間行事を行えましたが、翌年2月からは日本国内でのコロナ感染が増え始め地区民バレーボール大会を皮切りに、これまで行われてきた行事が令和四年度終了まで軒並み中止となりました。また、新型コロナウイルスの流行が南砺市でも顕在化し、交流センター閉館も2度ほどありました。

その中でも、協議会立ち上げ前のアンケート結果や、その後の「話し合い円卓会議」で提言された特産物を生かした収益を兼ねたふれあい事業、交流センターが地区民の交流と賑わいの場になるよう始められただけでも・なんでもサロン、交通手段がなく外出が出来ないひとの為の無料送迎サービスやまのりくんの運行、スポーツ室を行事や催事以外に広く地区民の方に利用してもらおうとはじめられたわいわい健康スポーツクラブなどは、コロナ禍の中でも工夫を凝らしながら休むことなく続けられました。運営に携わっていただいた皆様には、この場をお借りして心から感謝申し上げます。

さて、今年度から、協議会運営スタッフが会長職を始め一部を除き一新されました。今までのやり方を了とすることなく、時宜に合った山野地区の今後を見据えた活動を地区の皆様方とともに推進していきたいと思っております。今後とも一層のご協力をお願い申し上げます。



不易と流行

副会長 藤原 洋

「ご承知の通り「不易」は、いくら世の中が変わっても変わらないもの、変えてはいけないもの。「流行」とは世の中の変化とともに変わっていくものという意味です。現在、新型コロナウイルスが5類に移行され2か月が過ぎ、ゆっくりとですがコロナ禍以前の日常に戻りつつある中で、事務局体制も、新たに山野地域づくり協議会の第3期がスタートしました。

コロナ禍の3年間は、感染拡大防止のため、対面での会議やイベントの中止・縮小が当たり前になり、当協議会でも多くの事業が「コロナ感染防止のため」中止されています。

こうした中、「不易と流行」をモットーに、これまでの実績とアンケート「山野地区まちづくりの想い」を加えて、本会の目的である会員相互の親睦、福祉と文化の向上、安心・安全な暮らしづくりに努め、良好な山野地区を目指したいと思っております。皆様のご理解とご協力をお願いいたします。



山野地域づくり協議会 副会長として

副会長 川上 久志

まだ副会長に任命されてから、日が浅いせいかその自覚が十分ではない。今、あらためて小規模多機能自治について資料を読んだが、自分にはなかなか理解できない点が多い。そこに、見えてきた課題（進まない住民自治の理由）として市民側からの課題、自治振興会からの課題、市側からの課題がいくつか示されていた。課題への取り組みは、どこまで進んだのだろうか。「住民自治」や「地域内分権」という言葉の意味するところを、市民の視点だけの方々が理解されているのだろうか。わたしは、まだ十分に理解していない一人である。

また、山野地区まちづくりアンケート結果について、自由記述等のページに目を通した。読んでいて気がつくことがいっぱいある。真剣に自分の思いを書かれている。そこには、山野地区が抱えている問題・課題が多く示されている。そして、解決のためのヒントも示されている。あらためて、地域づくりについて学び、この役を果たしたい。



たくさんの人が気軽に集える場所に

総務部長 高山博文

今年の四月に事務局長兼総務部長に就任いたしました。毎日多くの人が趣味のサークルやサロン、スポーツなど様々な活動に一生懸命取り組まれており、また、里芋をベースにした経済活動や高齢者の外出支援としてのやまのりくんの運行など山野地域を元気にする活動が多方面で展開されています。しかし、協議会の活動が皆さんにまだまだ知られていない部分もあるように感じます。これからは山野交流センターが、よりたくさんの方が気軽に集える場所となるよう運営管理に努めていきます。また、広報やまのりホームページなど様々な手段を活用して、皆さんに協議会活動をより深く知っていただくとともに積極的に参加いただけるよう取り組んでいきます。

事務局には、四月から新たに地域づくり指導員として村岡洋子さんと永山茉莉さんが勤務しています。村岡さんは民生委員・児童委員としても活躍いただいております。また、永山さんは子育て真っ最中で、毎日小さなお子さんと一緒に出勤し、育児をしながら働いています。若いお母さんから高齢の方までいろいろな世代の方とお話ができたらと思っています。何でも結構ですので気軽に声をかけてください。



防災・安全部の役割

防災安全部長 高田 実

交通安全、大雨災害、火災、大地震等私達の周りには様々な形態の災害があります。しかし、それらはいずれも身に降りかからなければ自分事として感じられないのが現実です。でも、毎日どこかの誰かの悲しい現実になっているのが実情です。山



健康福祉部として

健康福祉部長 川上久志

「あたたかい見守りの中で、だれもが安心して暮らせる地域づくり」をめざし、ケアネット委員会では、「ふだんの暮らしの幸せのために、地域で気になる人を見守るケアネット活動」に取り組んでいます。ふれあい委員会では、「だれもが集まりやすく安心して楽しく過ごせる居場所づくり」として、世代を超えて集う「三世代交流」、一人暮らしの高齢者、高齢者のみの世帯を対象とした「ほのぼのの家」、そして毎週火曜日には、「健康マージャン会」を行っています。ボランティア委員会は、「あなたの脳と身体は、まだまだ元気ですよ。もつと脳と身体を働かせて楽しい日々を送りましょう」をスローガンとして年二十四回の「いきいき健康サロン」を行っています。昨年からは、自分自身の心身の活力（筋力、認知機能、社会とのつながりなど）、状態を知るためのフレイルチェックを年2回始めました。ご参加をお待ちしています。

野地域づくり協議会防災・安全部では、これまで、初期火災の防火訓練やAEDを含む初期救命救急訓練等を行ってきました。

今年度はそれらの物理的な訓練とともに、命の大切さや、もしもの時の心の備え、また普段の準備等の啓発活動に力を入れていこうと思っています。幸い、協議会はホームページやSNSなどの情報伝達の手段を持っています。どんどん発信していきますのでご期待下さい。



地域活性化部の取り組みとして



地域活性化部長 松川 毅

山野地域の活性化に向け、特産委員会と活性化委員会は、「強みを活かした地域づくり」と「住んで良かった、これからも住み続けたい」と思える生活環境の実現に向けて取り組みをしていきます。

特産委員会は、地域の強みでは『里芋』を核にした「住民参加型経済事業」を柱に「里芋作付面積と認知度拡大支援」三世代の交流・居場所づくりで多数の参画をいただいています。

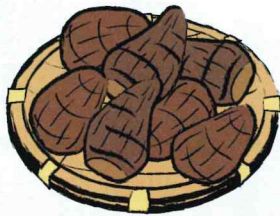
昨年初めて『里芋掘り取り体験会』を実施したところ、予想以上の多数の方にご参加頂き好評でした。今年は十月下旬に2週にわたり土日4日間の開催を企画していますので、多くの参加をお待ちしています。

農産物直売所「ふれあい広場やまの」では多数の方に来場して頂く為常に工夫したフェアを開催し、同時に直売会員を募集し、認知度をあげて販売増につなげ、配食サービスの充実を図ります。

山野保育園園児だけでなく保育士さんと今年も「イチゴ」「サツマイモ」「里芋」等野菜の植付から収穫まで実施します。山野の良さを知り絆が強くなるように続けていきます。

活性化委員会は、①空き家対策②農村環境維持保全③だれでもなんでもサロン④送迎サービスやまのりくんの運行を充実し、生活環境の維持に努めます。今年度から移住希望者に山野地区がわかってもらえる情報誌、次世代へ地域の情報を伝える「地域の教科書作成」に取り組んでいきたいと考えています。

これらの事業は、両委員会が常に連携を図りながら実行していきます。山野地区の皆様のご参加があつてこそ実現できる事業ですので、何卒ご理解を頂きご支援ご協力宜しくお願いいたします。



文化・スポーツ交流部の主な取り組み



文化スポーツ交流部長 河原 秀 樹

地域の皆さん、こんにちは。今年度、文化・スポーツ交流部の部長を拝命した河原秀樹と申します。どうぞよろしくお願いたします。さて、令和5年度の文化・スポーツ交流部は、次の主な取り組みを計画しております。

◆文化委員会

- ・ 三世代交流盆踊り大会
- ・ 山野ふれあい祭り（文化祭・敬老会）

◆スポーツ委員会

- ・ 運動会
- ・ わいわい健康スポーツデー

この中でも「わいわい健康スポーツデー」は、毎月第2・第4土曜日の午後2時から午後5時の間、スポーツ推進委員が参加のもと、山野交流センターのスポーツ室で安心して汗を流せる活動です。笑顔が多く見られ、嬉しく思っています。

終わりに、新型コロナなどの感染症の流行等には十分注意を払いつつ、適時・適切な判断と決断を下し、一歩一歩確実に文化・スポーツの面から山野地域の温かな絆づくりに努めたいと思います。また私自身も、多くの方との出会いやご意見を楽しみとしながら、徳を積み上げたいと思います。



令和5年度 山野地域づくり協議会 各委員会委員

総務委員会

高山 博文(委員長)
 高山 光夫 細川 正成
 永井 信彦 谷畑 清春
 波能 治男 中山 登
 村岡 裕一 野村 昌浩
 高田かおる

広報委員会

高山 博文(委員長)
 高山 光夫 細川 正成
 永井 信彦 谷畑 清春
 村岡 裕一 中山 登
 金戸 孝之 大浦 峻
 澤田有加里 鎌 卓志
 板橋 一徳 簗口 健世

防災・安全委員会

高田 実(委員長)
 往蔵 政人 岩城美智恵
 波能 治男 長井ゆかり
 崎田 栄信 長谷川光徳
 西村 一郎

ボランティア委員会

高田かおる(委員長)
 長谷川光徳 藤原 真美
 松川 久 稲垣 俊広
 村岡 洋子 大浦 智子
 小林 文次 岩崎 豊久
 高山 博子 往蔵 千鶴

ケアネット委員会

長谷川光徳(委員長)
 藤原 洋 崎田 栄信
 前川 英進 村元 守人
 波能 治男 永井 信彦
 山崎 茂 山田 義弘
 村岡 裕一 浅井 吉紀
 藤原 真美 松川 久
 稲垣 俊広 村岡 洋子
 小林 文次 才川かおり
 山田 義弘 大浦 徹
 境 有司 岩崎 豊久
 高山 博子 往蔵 千鶴
 吉田 陽子 村岡 律子

ふれあい委員会

高田 博之(委員長)
 山田 義弘 永井 信彦
 長谷川光徳 齋藤 眞二
 新里 史朗 大浦 順子
 境 有司 吉田 陽子
 才川かおり 村岡 律子
 大浦 徹 高田かおる
 大浦 智子 藤原 真美
 松川 久 稲垣 俊広
 村岡 洋子

活性化委員会

佐竹 弘昭(委員長)
 西村 源信 前川 英進
 高木 権一 高田 拓
 磯邊 博亮 棚田 綾乃
 榎木 勝規 松川 恵里
 西村 一郎 石倉 和宏
 藪 晴美 村岡 洋子

特産委員会

大浦 英征(委員長)
 前川 達夫 板橋 康一
 山田 義弘 山崎 茂
 河原 光顕 森井 孫俊
 西村 一郎 高田かおる
 高山 璃奈

文化委員会

大浦 均(委員長)
 岩崎 修 木下 晴雄
 山田 義弘 松川 正明
 斎藤 紀子 村岡 恵子
 松長 雅明 浅井佳和子
 往蔵 千鶴 藤原 孝志
 齋藤 眞二 山田 智生
 野村 昌浩 永井 龍大
 太田 広明 太田 理絵

スポーツ委員会

坂口 通(委員長)
 大浦 均 西村千佳子
 齋藤 眞二 齋藤 昌弘
 高山 真一 田中 幸
 柴田三希子 柴田 将吾
 長谷川雅弘 越山 穂高
 前川 恵弓 松原 数喜
 小林 憲司 西村 卓郎
 崎田 健史 谷川 快男
 藤井雄二郎 西藤 悟志
 村岡 裕一 鎌 匠志
 松長 寿 吉田 陽子
 林 千夏 綿貫 正治
 綿貫 絵美

山野地域づくり協議会1年の歩み

令和4年度 事業報告

総 会

令和4年5月10日、令和3年度総会を山野交流センター2階スポーツ室で実施。
全議案賛成多数により原案通り可決されました。

地域活性化部

里芋で元気なまちづくり事業として里芋植付と収穫、販売
里芋掘り取り体験会・有料（11月）約300名参加
ふれあい広場「産直の店」開設（4月後半より）
保育園児とのさつまいもといちごの収穫体験交流会
住民主体の移動サービス「やまのりくん」実施
だれでも・なんでもサロン開設（毎週火曜日 年42回開催）
かぶら寿司漬込み体験教室（12月）

健康福祉部

ケアネット委員会・研修（年3回）
敬老事業 米寿表彰、敬老饅頭配布（米寿者宅を個別に訪問）
3無健康マージャン大会（年8回開催）
フレイルチェック（7月、2月）

文化・スポーツ交流部

わいわい健康スポーツDay（毎月第2・4土曜日 年23回開催）
パークゴルフ大会（9月に開催）

防災・安全部

交通安全マスコット製作
防災訓練実施 参加者61名（非常食調理法講習、AED操作法、心肺蘇生訓練）

総 務 部

「広報やまの」年3回発行 春・冬花壇の花植え、球根植え
農村公園、慰霊碑前、保育園園庭草刈 ZOOM会議研修

ボランティアグループ

サロン「いきいき健康教室」（毎月第1・3金曜日 年23回開催）

*その他 井波地域、南砺市地域づくり協議会連合会 生涯学習連絡協議会 事務局長情報交換会地域づくりセミナー等に参加。各部各委員会の会議が開かれています。

令和5年度 事業計画

総 会

令和5年5月27日 山野地域づくり協議会第4回通常総会開催。原案通り可決される。

地域活性化部

住民主体の移動サービス「やまのりくん」継続
里芋で元気なまちづくり事業として里芋栽培・収穫、販売実施（いもっこ倶楽部）
ふれあい広場やまの（産直の店）
イチゴやサツマイモの収穫体験を通して山野保育園児と交流
だれでも・なんでもサロン毎週火曜日開催
かぶら寿司漬込み体験教室
集落の教科書作成準備

健康福祉部

ケアネット委員会、視察、研修
敬老会 米寿表彰、敬老饅頭配布
山野健康マージャンサロン 年3回（7月、12月、2月開催）
ほのぼのの家開催（2月）
だれでも・なんでもサロン（地域活性化部と共催）

文化・スポーツ交流部

立山登山 盆踊り 山野地区体育祭 山野ふれあい祭り パークゴルフ
わいわい健康スポーツDay（毎月第2、4土曜日午後オープン）

防災・安全部

防災訓練

総 務 部

「広報やまの」年3回発行
戦没者慰霊祭挙行
交流センター内外の環境美化活動。花壇の整備

*本年度は、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが、「新型インフルエンザ等感染症（2類相当）」から「5類感染症」に移行されたことを受け、これまで通り新型コロナ感染対策に十分留意しながら、山野地区民の交流と相互理解、地域の活性化に資する事業を行ってまいりますので、多くの皆さんの参加をお待ちしております。

令和4年度山野地域づくり協議会決算報告書

収入の部

(単位:円)

項 目	決算額	摘 要
繰越金	2,948,273	令和3年度繰越金
南砺市交付金、補助金	8,112,295	
富山県補助金	250,000	県中山間地支援事業(特産委員会特別会計繰入分へ)
南砺市社会福祉協議会	880,000	
会費	1,305,200	502世帯×2600円
招魂社維持費、更生保護等募金	87,880	502世帯×170円、緑の募金2,540円
雑収入	471,038	
会費(事業)	67,130	
公租公課(固定資産税)	122,581	第1~第4営農組合
合 計	14,244,397	

支出の部

(単位:円)

項 目	決算額	摘 要
会議費、役員費、需用費	582,429	総会、役員会、保険、固定資産税等
文化・スポーツ交流部	140,954	わいわい健康スポーツDay、パークゴルフ大会
地域活性化部	804,688	特産委員会活動費、だれも・なんでもサロン等
健康福祉部	441,776	ケアネット活動、敬老会等
防災・安全部	17,301	防災訓練
総務部	456,431	広報誌等
委託費、地域づくり助成	1,218,120	自治会、各種団体へ助成(消防団山野分団含む)
通信費、光熱費	1,090,468	電話料、受信料、ガス、電気、水道
備品費、管理費	750,061	スポーツ室扇風機、棚、全館消火器更新、コピー機レンタル
負担金、研修費	348,380	各部各種負担金、会費等
推進人件費	4,199,156	職員給与、役職手当
修繕費、諸雑費	715,761	和室建具、玄関ポーチ、会議室照明、外掲示板等
慶弔費	0	
特産委員会特別会計繰入金支出	250,000	特産委員会特別会計へ繰入金支出
繰越金	3,228,872	
合 計	14,244,397	

令和5年度山野地域づくり協議会予算

収入の部

(単位:円)

項 目	予算額	摘 要
繰越金	3,228,872	
南砺市交付金	9,341,330	
南砺市社会福祉協議会	910,000	
県補助金	250,000	県中山間地支援事業(特産委員会特別会計繰入分へ)
会費	1,305,200	502世帯×2,600円
招魂社維持費、更生保護募金	85,340	502世帯×170円
雑収入	459,258	コピー代、施設維持協力費、貯金利息等
事業収入	300,000	盆踊り、ふれあい祭り等
会費(事業)	300,000	立山登山、慰霊祭等
合 計	16,180,000	

支出の部

(単位:円)

項 目	予算額	摘 要
会議費、役員費、需用費	746,600	総会、役員会、保険、固定資産税等
文化スポーツ交流部	1,120,000	盆踊り、ふれあい祭り、わいわい健康スポーツ等
地域活性化部	1,340,000	送迎サービス、だれでも・なんでもサロン等
健康福祉部	740,000	敬老会、ほのぼのの家、ケアネット活動等
防災・安全部	410,000	防災訓練、防災備品、交通安全マスコット等
総務部	620,000	広報誌、戦没者慰霊祭等
委託費、地域づくり助成	1,200,000	自治会、各種団体へ助成(山野分団含む)
通信費、光熱費	1,100,000	電話料、受信料、ガス、電気、水道
備品費、管理費	700,000	コピー機レンタル等
負担金、研修費	350,000	各部各種負担金、会費等
推進人件費	4,896,330	職員給与、役職手当
修繕費、諸雑費	369,020	洗剤、消臭剤、ごみ袋、電球等
慶弔費	20,000	
特産委員会特別会計繰入金支出	250,000	特産委員会特別会計へ繰入金支出
予備費	2,318,050	
合 計	16,180,000	

編集後記

広報やまの135号をお届けします。今回は、山野地域づくり協議会の草創期の大変難しい時期のかじ取りをされた、大浦前会長はじめ多くの役員が交代されたことから新役員の紹介に多くの紙面を割きました。これからの地域づくりのあり方を皆さんに少しでも知っていただければと思います。前役員の方々にはこれからも多方面からのアドバイスやご協力をお願いいたします。

(広報委員会)

